

## 第6回佐伯図書館未来構想協議会・結果報告書

開催日時：令和6年2月2日 午後2時～

開催場所：教育委員会「まな美」3階多目的ホール

委員：出席・・・桑門 超 金 成妍 田中 淳子 檜垣 伸晶  
張 凱勛 御手洗 慎太郎 山本 智子 水本 陽子  
河野 美紀

欠席・・・長野 雅樹

事務局等：久々宮克也教育部長

社会教育課

丸山純一課長 戸高直人総括主幹 首藤幸一郎総括主幹

吉岡千鶴主幹

政策企画課

末永健二課長

佐伯図書館

三原館長 ナカバヤシ株式会社 石水啓介氏

内容：①佐伯図書館の理念及び指針について

※これからの佐伯図書館の在り方（素案）

意見等：○基本理念や指針5に「地域を愛し」や「郷土を愛し」という文言を入れ、郷土愛の醸成を図るのが良いのでは。

○【はじめに】の中に「芸術文化の振興、地域課題への取組」とあるが、これについては図書館だけでは解決できないため、他の施設との連携が必要。基本理念や指針に、その言葉が見当たらない。「指針2」の最後に地区公民館やコミュニティセンターとの連携が記述されているが、これでは弱すぎる。「芸術文化の振興、地域課題への取組」への具体的な道標が記述されていない。歴史資料館との連携や社会教育施設以外（民間等の含め）、特に観光や産業、文化との連携など 強い決意も記述に加えると良いのでは。

○たくさんの理念と指針を実現するには、今の図書館では無理なのでは。これを実現していくってなるとちょっと今の図書館のキャパとか、立ち位置とか位置関係では、難しいのでは。

○今ちょうど大きな関心事であるこの自然災害への取り組みっていうところで、やはり人の命を守る防災の観点がもう少し強く入ってくるといいのかなと思う。それが実現可能か不可能かというところではなくて、やはり命がないと何も考えられないし何も生まれない。この図書館に関しても、防災であるとか命を守るっていう考え方が入ってくると良いのでは。避難場所ということもあるし、防災意識を高めたり、いろいろな取り組みには最適な場所だと思う。人と人とが繋がることにも関わってくるので、そういう考え方が入ってくると良い。

○公的関係機関との連携はいろんな立ち位置の人が関わって、活動していくっ

ていうことになる、非常に連携とか調整とかが難しいのではないかと。民と官と、いろんな各所がうまく連携できれば繋がってくると思うので、きっと難しいところではあると思うが、図書館だからこそできる連携がきっとあると思うので、その辺をお願いしたい。

○郷土愛ってというのは、辞書的な意味が生まれ育った土地。佐伯で生まれ育った人にとっては、佐伯が郷土への対象になるのだが、全く自分の生まれ育ったところではないけど、一定の地域に対して、愛情を持って活動して、また佐伯に対して誇りを持って他にいえる、これがシビックプライド。シビックプライドってというのは都市に対する市民の誇り。なので、指針についても、郷土愛を醸成する図書館もいいんですけど、誇りを醸成する図書館にしたなら、外国人とか、移住する方たちとか、いろんな方に開かれた方向性が見えるんじゃないか。

○この指針の事話すときに、日本中のどこの都市、どこの市の図書館でも多分同じような言葉を挙げると思う。ここの佐伯しか持っていない佐伯しか出せない、そういう心躍る文言、そういう1つのキャッチフレーズが欲しい。そうしたときに、佐伯しか持っていないものって何だろうって思ったときに、佐伯も240年前に、図書館の原型である佐伯文庫が生まれた、それを誕生させた土地がらがあるわけだから、この歴史的な事実は非常に大きな誇りに繋がる要素があるので、そこをもうちょっと出した方が良いのでは。

○佐伯の歴史的なものを守れるような施設であるべき、今の図書館で大丈夫か。

○公民館と図書館はうまく連携がとれていない。ウィンウィンの関係ではない。図書館の整理も厳しい中で、公民館までは負担が大きすぎる。図書館の司書は大変勉強しているが、毛利とか佐伯文庫とかすごく歴史価値がある中で、司書には限界ってある。そういうときに、歴史資料館との連携はうまくできた。さくらホールというよりも、歴史資料館という言葉を入れる方が良いのでは。また、学校との連携については、学校図書館司書補と図書館司書の連携がうまくいかないといけない。

○佐伯図書館は、とても大事に資料も保管している。また、蔵書数も増えているが、ひとたび災害が発生してしますと、場所も建物も災害に対しては脆弱。資料の保存で、デジタル保存なども考えられるが、時間とお金がかかる。歴史資料の安全な保管なども考え歴史資料館と、是非とも歴史資料館という言葉を入れながら連携を本気でやっていただきたい。

○図書館同士の連携というかその他地域との、同じような課題を共有する場所の図書館との連携というか、そういったところまで指針の中に、入るのかどうか分からないが、情報に関しても、司書の方からたくさんの情報をいただける中で佐伯図書館にとどまらない情報が開かれている場所って、日本全体世界全体に、そういった知の情報が開かれてる図書館というようなイメージも幾らかあってもいいのでは。

○こういう在り方の素案をまとめた先にどういうふうなスケジューリングがある

のか、タイムテーブルがあるのか。或いは何らかの佐伯図書館の基本計画なりや具体的なアクションプランなりをまとめていかれようとしているのかその辺がちょっと我々にはわからない見えない。